

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***1957～1958年頃のネガアルバムを発見—その3— (8吋、PZT建屋、子午環など)**

アーカイブ室新聞第492号に書いた堂平観測所資料の中にあつたネガフィルムの報告の第3弾である。今回紹介する写真は、メモには8吋、PZT外部、子午環、電波望遠鏡、経度研究課、子午環内部、人物は安田氏などと書かれた部分に入ったものである(写真1、2)。



写真1



写真 2

写真 3 が 8 吋 (20cm) 赤道儀望遠鏡室 (第 1 赤道儀室)、写真 4 が PZT (写真天頂筒室) である。第 1 赤道儀室は現状と余り変わらないが、PZT 室にはその後設置された月光遮蔽板が見えない、またこの建物自体が 2011 年 3 月には撤去され更地になった。中の望遠鏡 (写真天頂筒 : PZT) は天文機器資料館に移設されている。



写真 3 第 1 赤道儀室



写真 4 PZT 室

写真 5 はゴーチエ子午環、写真 6 は三鷹のノイズと呼ばれた場所にあった電波望遠鏡である。調整作業が行われている電波望遠鏡の向こうには 10m パラボラアンテナが逆さまに向いた状態で写真に写っている。どちらも 1950 年代の写真であるから、その周りの様子が現在と全く違っていることが分かる。



写真5 ゴーチエ子午環棟



写真6 電波望遠鏡

写真7は報時受信用ロンビックアンテナ、写真8は木製の報時受信アンテナである。このアンテナは木製電柱を3本も継ぎ足して使っている。これ等の写真を見ると1950年代は東京天文台はまだ畑が一面に広がっていた様子が分かる。



写真7 ロンビックアンテナ



写真8 木製電柱アンテナ

写真10は、今の人には想像もつかないであろうが元三鷹国際報時所にあった天文時部の経度研究課の部屋である。昭和41年（1966年）に北研究棟が出来るまで、経度研究課はこの場所にあった。写真10は経度研究課の受信機と思われるもの。



写真9 経度研究課

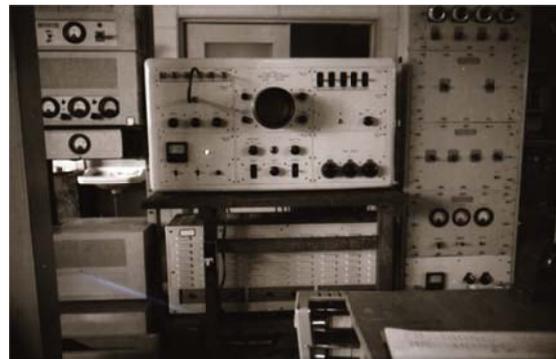


写真10 受信機

写真 11 は経度研究課の内部の様子、写真 12 は地震研究所三鷹分室近くにあった電波望遠鏡、左端に移っている「もみの木」は現在でも聳えている。

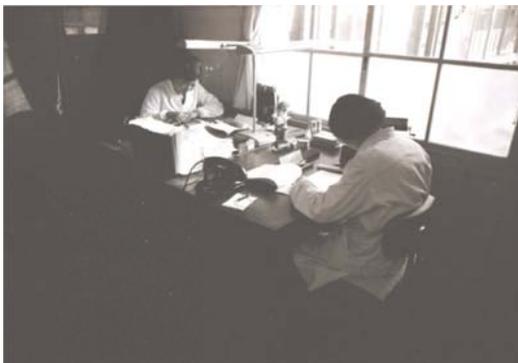


写真 11 経度研究課内部



写真 12 ノイズという場所ではない電波望遠鏡

写真 13 はゴーチエ子午環、写真 14 はゴーチエ子午環のデータを測定している安田さん。

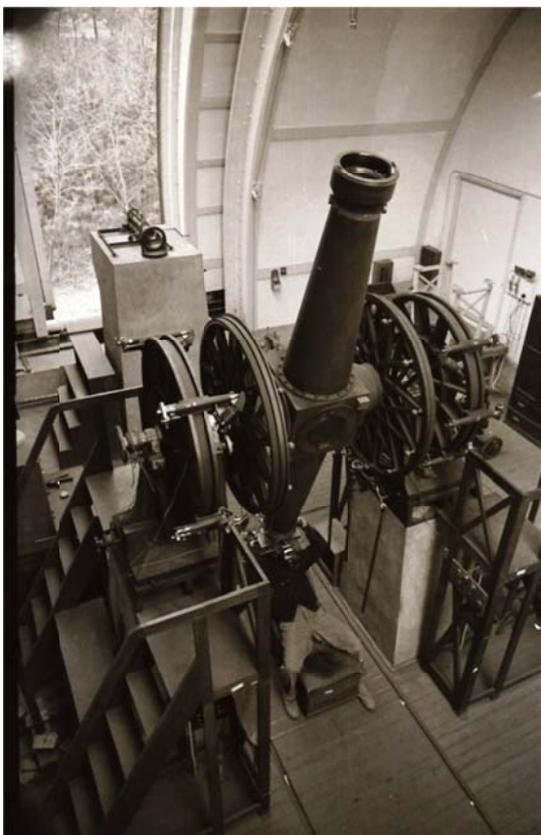


写真 13 ゴーチエ子午環

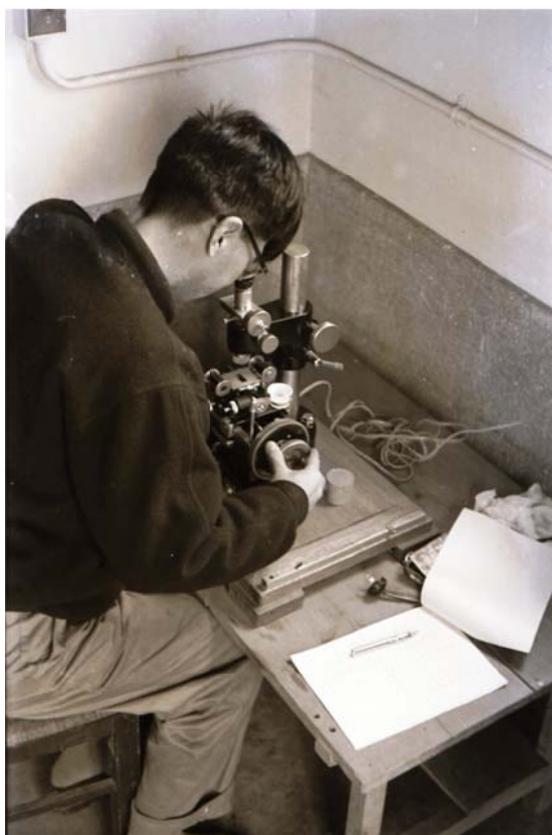


写真 14 測定中の安田さん

今回掲載した写真は、どれも懐かしく見る方も多いことと思う。50年以上前の写真である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp